

杉並区社会福祉協議会 実施計画(平成26～30年度)
区民等の意見提出手続の実施状況一覧

分類集計

	A	B	C	計
I 実施計画策定の背景	—	—	—	—
1 杉並社協を取り巻く環境	2	1	0	3
2 実施計画(平成23～27年度)の取り組み成果・課題から	0	0	1	1
II 実施計画(平成26～30年度)の概要	—	—	—	—
1 実施計画(平成26～30年度)体系図	0	1	0	1
2 基本目標・目標の柱と実施のための方向性	1	0	1	2
3 実施計画(平成26～30年度)重点事業	1	0	3	4
III 事業実施計画	—	—	—	—
目標の柱 I	0	0	1	1
目標の柱 II	1	0	0	1
目標の柱 III	1	0	1	2
実施のための方向性・組織基盤の強化	0	1	0	1
IV 計画の実行に向けて	—	—	—	—
その他	0	0	1	1
計	6	3	8	17

A・・・計画に反映するもの

B・・・事業実施の中で具体化するもの

C・・・参考意見とするもの

杉並区社会福祉協議会 実施計画(平成26～30年度)についての区民等意見

整理番号	頁	章	項目名	意見(要旨)	分類	社協の考え方
1	P4 P11	I	1 杉並社協を取り巻く環境	図2がわかりにくい。どちらが単身者なのかモノクロでも分かり易いようにしてほしい。 図10も同様にわかりにくい。	A	モノクロでも分かり易いように工夫いたします。
2	P7	I	1 杉並社協を取り巻く環境	「23区データ比較」で世田谷区の項を見ると、個人会員数・人口に占める会員の比率及びサロン数共他区を圧倒している。 この成果を得るに至った理由をヒアリングし、杉並社協の活動に活かすことができるなら、計画で触れてもいいかと思えます。	B	世田谷社協のサロン展開については、開催条件や助成のしくみなどが異なっていたと認識しています。改めてヒアリングし、今後の参考にさせていただきます。
3	P16	I	2 実施計画(平成23～27年度)の取り組み成果・課題から	杉並社協は、地区社協の形態をとっていません。地域密着型の間接支援組織として小地域を対象とする事業展開を展望するべきと思うのですが、いかがでしょうか。上述の「地域支援ネットワークの構築」は、その行先は地区社協ではないでしょうか。54万区民、面積34平方キロの杉並区は、一つで捉えるには大きすぎます。	C	「地域支援ネットワークの構築」は、一つの方策として地域包括支援センター(ケア24)のエリアを単位に地域が主体的に動くことを目指したネットワークで、杉並社協が地区社協をめざしたものではありません。 いただきましたご意見は杉並社協の今後の地域づくりをすすめる上で参考とさせていただきます。
4	P26	II	3 実施計画(平成26～30年度)重点事業	P16 地区担当制の試み・・・成功 〃 杉並社協が地域づくりを進める地域の単位についての検討は出来ず、継続して検討していくこの検討というのは、将来的にめざすものがあって、検討していくという意味でしょうか。 それは、地区社協の意味があるのでしょうか。		
5	P21	II	1 実施計画(平成26～30年度)体系図	「福祉なんでも相談」、「各事業の出前利用相談(拡充)」等、地域に出向き社協の活動を行う時は、プラスワン運動として必ず社協の活動についても簡潔に触れるよう職員各位に意識付けを図る。徐々に効果は出てくると思います。「社協は分かりにくい」、「会員になる意味が分からない」といった声を少しずつ減らしてゆけると思います。	B	ご意見のとおり事業実施の折に必ず社協活動についてPRしていきます。
6	P22	II	2 基本目標・目標の柱と実施のための方向性	「あなたの力をつなげる・・・」「つなぐ」でよいのではないかと。何か意味があるのか、言葉遣いの問題か。	C	策定委員会では、「つながる」や「つなぐ」も検討しました。しかし、いずれも他人事のように感じられ、社協の実施計画としてより主体的につなげていく姿勢を示すために「つなげる」としました。
7	P5	I	1 杉並社協を取り巻く環境	文章中の表現、文言について、言い換えや加筆を。	A	表現・文言が適切でない箇所をご指摘いただきました。それぞれ言い換えや加筆をいたします。
8	P22、 P23、 P24	II	2 基本目標・目標の柱と実施のための方向性			
9	P25 ～26	II	3 実施計画(平成26～30年度)重点事業	3重点事業の順番が(4)と(1)を入れ替えたほうが構成が良いのではないかと。	C	目標の柱の順序に従い記載してあります。重点の度合いの順序ではありません。ご理解をお願いします。
10	P26	II	3 実施計画(平成26～30年度)重点事業	(3)災害ボランティアネットワークの箇所の書き込みが不足しているように感じる。	A	区民に伝わるよう、加筆をいたします。

11	P26	II	3 実施計画 (平成26～30年度)重点事業	災害が起こるのは予定できないと思われまので、いつどの範囲でどの程度のものかと予想をしてその対応を素早く行えることを考えるべきではないかと思いません。	C	平成22年度に「杉並社協職員 災害対応マニュアル」と「災害ボランティアセンター マニュアル」を整備し、災害発生時の指揮命令系統・責任者は決めています。また今後、東日本大震災を経験し、より実効性のあるマニュアルとするために見直しを行っていきます。
12	P34	III	I-1-1-1 災害ボランティアネットワーク	災害の起こり方が違ってても対応可能な指揮、命令、責任者等を事前に決めておくべきだと思います。		
13	P30	III	II-1-1-1 はじめてのボランティア説明会の開催	「はじめてのボランティア説明会の開催」で課題を認識して、新たに大学生をターゲットにしたことは、大いに賛同できます。大学の生協へのアプローチはどうでしょうか。主旨を説明したパンフを置かせてもらうとか、食堂等にポスターを貼らせてもらうとか、説明会と併行して対応することで効果が期待できると思います。また、2月11日の広報「すぎなみ」に、長寿応援ファンドを活用した地域貢献活動で、若者が行う活動を募集していますが、一部社協の活動と重複している部分があります。区とコラボしてはいかがですか。	A	すでに事業計画シートへの記載にありますとおり、大学との連携を強化の方法としてご意見を取り入れていきます。また、長寿応援ファンドとの協働については、研究してまいります。
14	P34	III	III-1-1-1 災害ボランティアネットワーク	社協の重要なテーマと考えます。急ぐあまりに内容が不十分なものになってしまうことは避けねばなりません。しかし、災害はいつ起こるかわかりません。P34の5年間の実施目標は、特に検討会についてはもう少しピッチを挙げて取り組むべきではないでしょうか。	A	「検討会」は実質的な活動を兼ねた組織として考えておりましたが、わかりにくい呼称でした。「検討会」を「ネットワーク組織」と改めます。ネットワーク組織は、2年目には立ち上げ、定期的な情報交換や協議、研修、訓練などに取り組み、さまざまな検証を繰り返し、実効性のあるものとします。
15	P35	III	III-2-1-2 地域支援ネットワークの構築	●目標の柱 III 地域支援ネットワークの構築(新規)の取り組みに期待いたします。地域の人のつながりが薄くなった、と言われて久しいものがあります。ネット上の拡がりは今やグローバルなものとなり、その情報量の拡大は私たち世代には想像を絶するものがあります。それに対して顔の見える、気持ちが直接通じ合える関係は反比例して希薄になっているのは皮肉なものです。高齢者福祉の分野では、「地域包括ケアシステム」の構築が提起されており、フォーマルな制度が実態に追い付かないが故に地域こそ大事、市民のささえあい・たすけあいこそが大事と、これまた声高に叫ばれています。団塊世代が後期高齢者となる2025年に向けて、「地域包括ケアシステム」がめざす介護・医療・住まい・介護予防・生活支援の連携を図りながら、地域で最後まで自分らしい暮らしを続けることができる仕組みをつくりだしていく時、この度提起されている「地域支援ネットワークの構築」は、まさに求められているものと思います。社協こそ、地域に根を下ろしてほしいと思います。今、地域では本当に様々な市民活動・市民事業が繰り広げられています。その中でNPO・ボランティア第3世代と言ってよいでしょうか、若い方たちが頑張っている姿が目に見えるようになってきているのは嬉しいことです。当面社協が担当する3つのケア24の地域からということですが、その過程の中で他地域にも情報のアンテナを張っていただいで、連携できるとよいと思います。	C	策定委員会においても、インフォーマルなネットワークについて意見が出ました。試行的に本会が受託運営しているケア24の地域を挙げましたが、ご意見のとおり、他地域も意識し、社協、住民、地縁組織、NPO団体等が連携して、高齢者問題だけでなく、様々な課題に取り組みたいと考えています。

16	P38	Ⅲ	IV-2-1-2 空き家・空き店舗利活用	<p>●基盤強化 <u>住民・事業者の提供による拠点の有効活用を図る</u> <u>…空き家、空き店舗の活用</u> を推進してください。</p> <p>今、地域で居場所づくりやコミュニティカフェ等に取り組みたい団体・個人が増えてきています。問題は場所。一方で空き家率は10%にもなるという時代です。杉並区の住宅課でも空き家調査を行っていますが、調査どまりで活用にまでは至っていません。市民側から見れば、空き家らしいが持ち主もわからないし、わかってもどうやってつなげばよいかかわからない。情報が得られ、マッチングの手法がわかれば、活用が実現するかもしれません。杉並区と連携して空き家・空き店舗活用の問題に取り組んでいただきたいと思います。</p>	B	<p>ここ数年、防犯面からの問題、地域資源としての活用等、空き家・空き店舗の問題が取り上げられてきました。まだ、取り組み事例が少ないですが、他社協では空き家を借上げ、地域団体の活動拠点として運用している例があります。引き続き、情報収集を重ね、区や関係機関等と連携しながら、取り組んでいきます。</p>
17	P57	資料	その他	<p>用語解説は親切で良いが、その言葉を最初に使用したページに枠囲みで入れてもらえれば読み手側には更に優しいと思う。</p>	C	<p>紙面の都合で各ページに用語解説の脚注を設けることが困難です。ご理解をお願いいたします。</p>

- A…計画に反映するもの
- B…事業実施の中で具体化するもの
- C…参考意見とするもの